

令和 6 年度学校関係者評価委員会報告書

令和 7 年 3 月 28 日
世田谷区立駒沢小学校
学校関係者評価委員会
委員長 片岡裕子

本年度 11 月に実施しました「学校関係者評価」の結果をご報告いたします。

アンケート回収率・状況

児童(5、6年生):100%(校内にて実施) 保護者:49%(昨年)→56%(今年) 地域 40%(昨年)→53%(今年)

(参考: 保護者・地域ともに昨年より回収率は上がっており、改善傾向にある。とはいえ、紙媒体で実施していたコロナ前は保護者の回収率は常に 80%台であったことから、オンラインでの実施には更なる工夫が必要であろう)

～ アンケート結果 (駒沢小学校 HP より) ～

児童(5,6年生)➡



保護者➡



地域関係者➡



評価結果の分析方法

- ① 本年度の各アンケート項目の「とても思う」「思う」の回答数合計の割合を出す
- ② アンケートの項目ごとに昨年度と比較し「よくなった」「悪くなった」等の状況を把握する
- ③ 否定的回答の「思わない」「あまり思わない」および回答傾向が不明な「わからない」が多かった設問について検討する

総合所見

【成果】

●全体的に教育活動(学習、学校行事、生活指導)に対して児童は 80～95%、保護者は 60～90%が肯定的な評価結果を示している。昨年に引き続き、児童も保護者も教育活動に関して概ね満足しており、日頃から学校では、児童、教師、保護者が良い関係で子どもたちの教育活動と向き合っている様子がうかがえる。「授業では、考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある」に 95%の児童が肯定的な評価をしており、今年度「主体的に学び自分の思いや考えを表現し合う児童の育成」のテーマに沿った校内研究の成果が出ている。

●「学校のきまりを守って行動している」に対して昨年は 20%近くの児童が否定的な評価を寄せていたが、今年は否定的な評価が 12%程度まで減っている。何のためのルールなのか子どもたちが理解できるよう教職員が丁寧に指導を繰り返した成果が少しずつ出ている。

●「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」「地域の大人から将来のことや生き方について学ぶ機会がある」は肯定的な評価が昨年に比べ 5～10%ポイント、上がっている。キャリア教育について今年度の重点目標として学校が積極的に取り組んだことがうかがえる。

【課題】

●教育活動について肯定的な高い評価が多数を占める中、今年度からの新しい質問「学ぶことが楽しい」に関して、児童からの肯定的な評価は 80%に満たなかった。学校は重点目標として「学ぶ楽しさを知り、考えを深める力を育む」を掲げており、

そのために、どのようなプロセスが有効か協議して取り組む必要がある。

●「学校に意見や願いを伝えている」「学校は私の意見や思いを汲み取っている」という質問に対して児童、保護者からも肯定的な評価は 60%に及ばない結果となった。設問の文言が伝わりにくかった可能性も含めて再検討が必要である。

●昨年に引き続き区立中学校に関する情報提供、「駒の学び舎」との連携に関しては、児童、保護者ともに評価を得ていない結果となっている。掲示板を活用したり学校 HP のリンクをお知らせしたり改善策は見られるものの、児童・保護者に浸透していないのが現状である。もっとわかりやすく伝える手段を検討しなければならない。

今年度の評価委員会は、上記総合所見の課題部分に注目して考察した。以下の提言をもとに、学校運営の改善につなげてもらいたいと考えている。

【提言】

① 「学ぶことが楽しい」と感じる環境作り

- ・実生活に結びついた課題解決型の学習や体験学習を積極的に取り入れるなど工夫を重ね、今後も先生方の授業構想力の向上を、教師個人に委ねるのではなく学校全体として取り組んでいただきたい。
- ・ICT の活用は児童から高い評価を得ているので、今後は児童同士の協働的な学びにつながるよう、また学習に対する興味・関心を引き出す授業につながるよう、ICT のルールを守りながら、引き続き ICT を効果的に活用してほしい。
- ・子どもたちが日々小さな成功体験を積めるよう学習の進捗を可視化するなど、達成感を得られるような取り組みを期待する。

② 児童の意見を反映した学校運営の推進

- ・児童の意見を積極的に集めるしくみ(例:児童集会、アンケート、意見箱など)を整え、引き続き学校行事や日々の教育活動に反映してもらいたい。
- ・児童の意見をもとに学校行事や学習活動を改善し、フィードバックを行うことで、児童の参加意識が高まると考える。

③ 保護者や地域との連携強化

- ・保護者向けの情報発信を充実させ、学校の取り組みをより明確に伝えるために、正門前昇降口にある掲示板を積極的に活用して周知を図っていく努力が必要である。また周知の手段として、特に注目してほしい情報は「すぐーる」で単発の情報発信をし、保護者との連携を深めていただきたい。
- ・地域の人材を活用した学習活動やキャリア教育の機会を定着化させ、児童の将来に対する意識を高める。

④ 区立中学校および「駒の学び舎」との連携、その広報活動

- ・児童や保護者に向けた区立中学校や「駒の学び舎」の情報提供をより分かりやすく発信するため、引き続き学校の掲示板や HP で、写真などを使用して視覚的に理解しやすい形で情報を発信する。
- ・「駒の学び舎」への理解を改善するためには、例年よりも踏み込んだ広報活動を検討する必要がある。中学生や卒業生との交流イベントを実施したり、卒業生のインタビューなど信頼性のある魅力を伝える記事を紹介したりして、進学に対する具体的なイメージを持たせることも有効である。

⑤ 学校のルールに対する理解の深化

- ・児童がルールの意義を理解し、主体的に守れるよう、対話型の指導を今後も継続してもらいたい。
- ・具体的な事例を用いて、ルールの背景を考えさせる機会を提供していただきたい。
- ・学校と家庭が共通の価値観のもとで指導を行っていけるよう、より連携することを期待している。

これらの提言をもとに、駒沢小の児童が主体的に学び、意見を表現しやすい環境を整えることで、より充実した教育活動を実現することを期待する。

提言を受けての小学校の取り組み

①「学ぶことが楽しい」と感じる環境づくり

各教科で単元ごとのねらいに沿った課題解決型や体験学習を効果的に取り入れるために、カリキュラムマネジメントを行うなどの工夫をしていく。また引き続き、月1回行う世田谷区の研究会や東京都で行うさまざまな研究会に積極的に参加し学びを深め、校内のOJT研修で情報共有をしていく。今年度もタブレットのロイロノートを有効活用し、協働的な学びや個別最適な学習を行ってきた。今後も引き続き活用していく。また、ネットリテラシーなどタブレットの使い方については家庭と協力してさらに徹底し、充実した学習をすすめていく。

②児童の意見を反映した学校運営の推進

5,6年生が行う委員会活動の中で、「こんな駒沢小学校にしたい。そのためには・・・」という視点で活動内容を考えさせ、実行していけるよう支援していく。また今年度同様、学年の実態に応じて児童で学習のルールを話し合ったり、アンケートをもとに特別活動を行ったりするなど、児童の声を活かした教育活動を行っていく。

③保護者や地域との連携強化

保護者への情報発信については、提言にあるように情報の種類に応じて昇降口の掲示板や「すぐーる」を積極的に活用していく。来年度は昇降口に新しい掲示板を設置し、児童の様子を定期的に発信していく。学校の教育活動に積極的にかかわってくださる地域の人材を大切に、さらに地域とのかかわりを深めていく。「楽しく学ぶ」ことを目指し、ゲストティーチャーなど積極的に取り入れていく。引き続き駒沢大学、国際動物専門学校をはじめ、地域の企業や学校関係者との連携を図っていく。

④区立中学校および「駒の学び舎」との連携、その広報活動

「魅力ある学び舎づくり」の研究指定校として1年目を迎えるので、地域と連携したキャリア教育を中心に、児童生徒の交流も行っていきたい。来年度は、例年行っているあいさつ運動に加え、中学校の合唱コンクールのリハーサルを見学する予定である。研究授業や交流の様子をHPや「すぐーる」で紹介し、地域や保護者に知らせていく。

⑤学校のルールに対する理解の深化

学校のルールについて、まずは保護者会等で共通理解を図り、家庭と学校で共通した指導が行えるようにする。児童に対しては、今後も対話型の指導を行っていく。

終わりに

今年度の学校関係者評価について、委員の皆様へ傾向を分析していただき今後の方策についてまとめていただきました。感染症の流行による、大きな制約を受けた後の数年間は、改めてそれまでの教育活動を見直すとともに、持続可能な内容に焦点を合わせています。今回の提言を受け、今まで大切に培ってきたものについては継続し、新たな視点で改善を加えるものについては、職員間での共有を図ってまいります。

令和6年度は『魅力ある学校づくり』をテーマに、地域との連携を図った教育活動を実践することができました。次年度は、これをさらに『魅力ある学び舎づくり』へと発展させてまいります。小中3校での実践をもとに、駒の学び舎での実践を広げるとともに、地域の皆さんとの新たな教育活動を展開してまいります。これからも、駒沢小学校の子どもたちの輝く笑顔のため、職員一同力を尽くしてまいります。